

船舶事故調査報告書

令和4年11月30日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和4年2月12日 09時15分ごろ
発生場所	静岡県御前崎市御前崎東北東方沖 御前崎灯台から真方位070° 2.2海里付近 (概位 北緯34°36.5′ 東経138°16.1′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ホワイトパール} White Pearlは、北進中、右舷船尾方より波を受け、転覆した。
事故調査の経過	令和4年3月8日、主管調査官（横浜事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート White Pearl、5トン未満（長さ3.36m）
船舶番号、船舶所有者等	281-38053静岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型
負傷者	軽傷 1人（船長）
損傷	船外機に濡損等（全損）
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1.0m、波向 南東、海水温 約17℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、定係地の静岡県相良町地頭^{じとうかた}方漁港を出航し、御前崎東方沖の御前岩^{ごぜん}付近で釣りを行ったのち、波が高くなってきたので帰航の目的で北進を開始した。</p> <p>本船は、約7ノットの対地速力で北進中、右舷後方からの波を受けて左舷側に転覆した。</p> <p>船長は、海に投げ出され、持っていた携帯電話で118番通報して海上で漂流していたところ、来援した巡視艇に救助され、御前崎港に到着し、海上保安庁からの要請で待機していた救急車で静岡県牧之原市所在の病院に搬送され、低体温症と診断された。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>船長は、早朝に定係地に来た際、波が高いと思ったが、少し待っていると収まってきたので出航を決定した。</p> <p>船長は、本事故の前日、気象及び海象を調べた際、風速が約3m/s、波高が約0.8mであったので、出航しても危険はないと思っていたが、沖に出て波が高くなり、危険を感じて帰航を開始して数分で転覆したので、もっと早く帰航を決断すれば良かったと思っていた。</p> <p>本船の乾舷は、船首及び船尾共に約50cmであった。</p>
分析	本船は、乾舷が約0.5mであり、北東の風、北西からの波及び波高約1.0mの状況下、船長が、釣りを目的として出航したことから、波が高く帰航しようとした際、右舷船尾方からの波を受けて転覆

	したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、乾舷が約0.5mであり、北東の風、北西からの波及び波高約1.0mの状況下、船長が、釣りを目的として出航したため、波が高く帰航しようとした際、右舷船尾方からの波を受けて転覆したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 小型船舶の船長は、実際の現場の気象及び海象並びに自船の乾舷から危険であると判断した場合、出航を取り止めること。